

顧問挨拶

理化学研究所

菅野 暁

綿密な計画のもとでSPring-8の建設が着実に進んでいるようで、ご同慶の至りに存じます。私の方は折角利用者懇談会の仲間に入れて頂いたのに、あまりお役に立つことも出来ず、申し訳なく思っています。これから申し上げることは、何かお役に立ちたいと考える一理論屋のつぶやきとお考え下さい。

よく言われておりますように、SPring-8のように多目的に利用出来る可能性を秘めた新しい実験装置になりますと、それをどのような研究に用いるかが、装置の価値を決める重要なファクターになるものと思います。その装置を利用して実験を行う研究者は、科学的、あるいは応用的に重要で興味のある問題を探すことにふだんから全力をあげているのは勿論ですが、いつも一つの目は装置の性能に注がれていて、果たしてその問題の実験研究が可能かどうかを検討しておられることと思います。一方理論研究者の方は、実験可能かどうかの吟味は不得意かも知れませんが、問題の一般性とかその解決がもたらすインパクトの大きさなどにはかなり鋭い感覚を備えているようです。現実に縛られる実験屋とかなり自由な発想が許される理論屋の間には相補的な関係がありますので、SPring-8のような大型の研究所では、適当な数の生き生きした理論屋をその内部とか周辺に配し現実に縛られた実験屋に少しでも活力を与えるシステムを構築されることをお勧めします。外部からの利用者が多いSPring-8のようなところでは、それなりに適したシステムが考えられることと思います。

民間の研究所ですが、昔私が滞在しておりましたベル電話研究所などでは、かなり大きな理論部門があって、そこがベル研における革新的な研究の大きな湧き出し口の一つになっておりました。ベル研の実験研究者は優秀な研究者程、理論屋が現実の束縛に弱いことを知っていて、私が ” 実験可能かどうか分からないけど・・・ ” とか ” こんな結晶があるかどうか分からないけど・・・ ” とかいうと、そんなことを考えるのは実験屋の仕事だから理論屋は心配するなといわれたことが何回かありました。

さて、なんのお役にも立たなかった私の今年の仕事ですが・・・、共同チームの上坪さん、植木さんの後押しもあって、とにかく全国の物性理論屋さんにSPring-8を知ってもらおうと、6月6－8日に播磨科学公園都市にある先端科学技術支援センターで、SPring-8利用に関する理論ワークショップを開く予定です。その内容は ” 放射光をプローブとして観測する新しい物性とか、放射光を照射して作り出す新しい材料や物性について、その手法も含めて、かなり先を見つめた理論的検討を行う。対象としては生物も含める。 ” というものです。そこでは、理論屋の特権を生かして、SPring-8の予定されている性能に縛られない自由な発想を大切にしたいと考えています。外部準備委員のご協力を得て20を超える招待講演も決まり、招待者を中心に活発な討論が行われるものと期待しています。